

【優秀賞】

不平等な世界

三豊市観音寺市学校組合立三豊中学校 三年 松本悠太郎

テレビで「女の子が学校に行けない」「貧困のため幼い少女が結婚させられている」というニュースが流れていた。

僕は「なんで、こんな差別が起こるのか」とその理由も分からず不思議に思った。「男性が偉くて女性が教育を受けられない。そんな国があるのか」と。でも、このニュースを一緒に見ていたお父さんが、「少し前まで、日本も一緒みたいなものだった」と言った。僕は驚いた。僕が知っている日本は、男子も女子も学校に行き、平等に勉強をしている。当然、中学生の女子が結婚することはない。また、家ではお父さんもお母さんも働き、お父さんは家事もする。確かに、男性と女性で得意不得意はあるかもしれないけれど、基本的には平等だ。そんな日本にも男女平等ではない時代があったなんて信じられなかった。

そこで、お父さんに「日本は、そんなことはないやろう」と言った。すると、お父さんは「じゃ、のび太君や、ちびまる子ちゃん、サザエさんの漫画で考えてみて」と言った。

確かに、お父さんの言うとおり、僕が見ている今の家庭と少し違うところを見つけた。どの漫画も、お父さんとお母さんの仲が良いのは確かだけれど、漫画では「お父さんが働き、お母さんは専業主婦」「家事のほとんどはお母さんが行い、お父さんは座卓に座って、ご飯を出してもらい食べている」「お父さんが洗濯をして干している姿はほとんどない」という違いがあった。

確かに、今の僕の家とは違う。僕は「そうか、日本も昔は、男性が強く、女性が弱い時代があったのだ」「そして、今はやっと、男女平等の時代になったのだ」と分かった。

しかし、お父さんが、続けて言った。「本当に日本は、男女平等と言えるのか。自分で調べてみたらどうだ」と。

僕が調べてみると、こんな記事を見つけた。

世界経済フォーラムで発表された「ジェンダー・ギャップ指数」では、一四六か国のうち、日本は一二五位。政治や経済分野で指数が上昇せず、主要の七か国で最低となっている。

僕は、また驚いた。てつきり、日本は世界でもトップクラスの平等な社会だと思っていたからだ。でも、よく考えてみると日本の国会議員や県知事のほとんどは男性だし、ニュースに出てくる社長と言われる人の大半は男性である。でも、海外では女性の議員や社長がたくさんいるらしい。僕が男女平等だと思っていた日本は、世界の中ではまだまだ平等と言えるものではないことが分かった。

そこで、僕は一瞬、「それなら、選挙の時に当選する人を最初から、半分は男性で半分は女性にしたら良い。そうすればジェンダー・ギャップ指数も改善し、国際的にも認められるのではないだろうか。」と考えた。

しかし、一方で「選挙で投票数の少なかった女性が当選して、投票数の多かった男性が落選する可能性もある。また、数字だけ調整して国際的に認められても真の平等と言えるのだろうか」と思った。もつと、普通に女性が活躍できる社会ができて、男女平等に選挙で選ばれて、概ね半分になるのが、本当の男女平等な社会ではないだろうか。

では、そうするためには、どうしたら良いのだろうか。まずは、僕の身の回りから考えてみることにした。僕は、中学生だ。中学生になれば男子の力が強く、声も大きく、意見もはっきりと言える子が多い。どうしても男子の言うことが「みんなの意見」として通りやすい。でも、こんな時こそ、声が小さい子の意見も聞くべきではないだろうか。その聴き方も考えなければならない。自由に意見を出し合う場合には、

みんなが紙に書いて提出し、特定の人に意見を求めるのではなく、全員に個人の考えや思いを引き出し、その後は、偏見無く判断しなければならぬ。すると、女子の考えを聞くことができると共に、普段、恥ずかしくて発言できない男子の意見も聞くことができる。そうすれば、きっと良いアイデアもでるし、より良い判断ができるのではないだろうか。

僕が思うに、男女平等というのは、決して男性と女性だけを分けるのではなく、みんなが同じ立場で意見を出し合い、対等な関係で方針を決められることが、結果として、男女平等になるのではないだろうか。

現在、男性と女性だけではなく、LGBTQへの理解も進んできている。もう男女平等ではなく、人間みんなが平等になる時代を目指さなければならぬ。そのために、僕は、性別に関係なく、みんなの声を偏見無く、素直に聞くとともに、自分のためにも、みんなの為に平等に判断したい。